

事業者向け 自己評価表

No 1

カテゴリー		チェック項目	改善点、工夫できている点など
環境・体制整備	1	子どもの活動スペースが十分に確保されているか	確保されているが、複数名、特に、利用者6人以上に指導員がプラスされると十分ではないと感じる。身体活動を行うとき等には、もう少しスペースがあればよい。
	2	職員の配置数や専門性は適切である	適切である。
	3	設備等は、バリアフリー化の配慮が適切になされている	入口はスロープだがトイレ・手洗い場は結構な段差がある。現在車椅子利用の利用者はいないが、プログラムによって狭い導線になるので車いすや杖利用の場合には厳しい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定を振り返り）に、広く職員が参画している	参画している。
	5	保護者向け評価表を活用する等により保護者の意向を把握し、業務改善につなげている	現在実施中。
	6	この自己評価の結果を、事業所のホームページで公開している	している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を改善に繋げている	実施していないが、支援には直接関わらない経営者が職員ミーティングに参加し、意見を述べているのでそれを持って行っている。今後は、外部評価を定期的に受け、業務改善のヒントを探る必要がある。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	毎週定例の職員ミーティングで研修機会を確保している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、支援計画を作成している	作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	使用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないように工夫している	工夫している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やか設定して支援している	行っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて支援計画を作成している	作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援お内容や役割分担について確認している	確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	共有している。
	17	日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	記録の徹底はできているので、精査と振り返りに今後繋げていく。

事業者向け 自己評価表

No2

カテゴリー		チェック項目	改善点、工夫できている点など
	18	定期的にモニタリングを行い、支援計画の見直しの必要性を判断している	昨年度から不十分であったので、現在実施している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行なっている	現在、送迎による支援を増やし、保護者の負担軽減に努めている。定例的にガイドライン研修の場を設定されている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	機会がない、機会を作れていない。地域連携の課題意識は常に持って取り組んでいる
	21	学校との情報共有、連絡調整を適切に行なっている	近隣の学校への挨拶はしたが、利用者についての連絡調整はまだできていない。地域連携の課題意識は常に持って取り組んでいる。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等との連絡体制を整えている	現在そういった利用者はいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	出来ていない。今後、必要に応じて実施していく。地域連携の課題意識は常に持って取り組んでいる
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等を提供する等している	現状そういった申し出がないが、あれば応じていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	出来ていない。今後、必要に応じて実施していく。地域連携の課題意識は常に持って取り組んでいる。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	地域に教室を開放する機会は作っているが交流には至っていない。地域連携の課題意識は常に持って取り組んでいる。
	27	地域自立支援協議会等へ積極的に参加している	出来ていない。今後、必要に応じて実施していく。地域連携の課題意識は常に持って取り組んでいる。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行なっている	外部講師を招き、保護者参加型の研修会を不定期で開催はしているので、その中で機会が作れば今後実施していく。
保護者への説明責任等	30	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行なっている	契約時に説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行なっている	相談に乗れる職員が限られているので、その職員に上手く繋げる必要がある。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	保護者参加型の研修会を不定期で開催はしているので、その中で機会が作れば今後実施していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	会報発行は行っていないが連絡ツールで日々情報共有している。迅速に対応し発信している。
	35	個人情報に十分注意している	十分に注意している。

事業者向け 自己評価表

No3

カテゴリー		チェック項目	改善点、工夫できている点など
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	配慮している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	積極的には招待していないが、各種体験会を開催している。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	周知できていない。策定し、周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行なっている	行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	対応をしている。毎週定例の職員ミーティングで研修機会を確保している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分にせつめいし了解を得た上で、支援計画に記載している	職員研修の中で触れたが具体化できていない。毎週定例の職員ミーティングで研修機会は確保している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	食物の提供は行っていない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	事例集はないが、事例を迅速に共有して対応している。それらをまとめて事例集を作っていく必要がある。